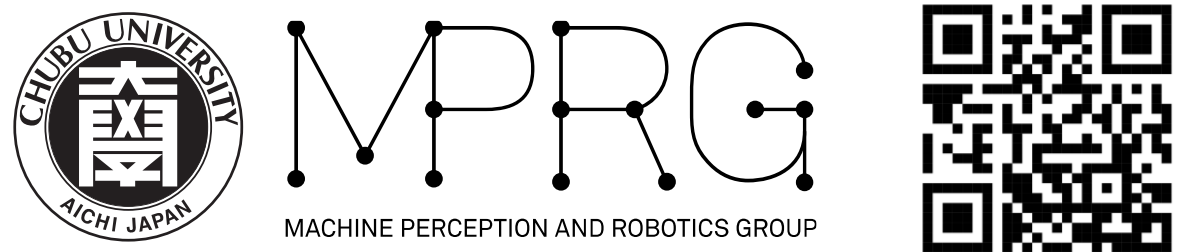


IS1-51：特徴マップの幾何変換前後に着目した敵対的サンプルの検出

土松千紗，足立浩規，平川翼，山下隆義，藤吉弘亘
中部大学



研究背景

研究目的

- Adversarial Examplesの防御
- Adversarial Examples (AEs) : 畳み込みニューラルネットワーク (CNN) の誤認識を誘発
 - Adversarial detection : AEsの特徴や挙動に注目した検出器をモデルの前に配置する防御法

- 従来手法の問題点
- モデルの内部状態に対する分析が不十分
 - AEsの多くがモデルの勾配をもとに摂動を導出
 - モデル内部の変化を考慮することで更なる性能向上を期待

分析

設定

- データセット
 - CIFAR-10
- モデル
 - ResNet-18
- 攻撃手法
 - PGD ($\epsilon = 0.031$, $\alpha = 0.003$)
- 幾何変換
 - 左右反転+{90°, 180°, 270°}の回転

1サンプルを用いた分析結果

通常の画像 (Clean)

AEs

特徴マップのチャンネル方向の平均

- Clean : 座標の一致率が高い
- AEs : 座標の一致率が低い

活性化前の最小値，活性化後の最大値の座標の一致率を用いたAEsの検出が可能

複数サンプルを用いた分析結果

3層目

5層目

7層目

各層における座標一致率の分布

特徴マップに対するAUROC

	3層目	5層目	7層目
AUROC	0.4946	0.5378	0.4993

- 5層目
- CleanとAEsの分布の違いが最も大きい
- AUROCが最も高い値

5層目の特徴マップを用いた検出が有効

提案手法

特徴マップと事後確率を利用した検出器

- 特徴マップと事後確率を用いた計算結果と閾値を比較しAEsを判定

事後確率を用いた判別

- 各幾何変換画像と元画像の事後確率を取得
 - KLダイバージェンスを導出し，閾値と比較

特徴マップを用いた判別

- 活性化前の最小値，活性化後の最大値の座標を導出
 - 座標の一致率を導出し，閾値と比較

検出後の処理

- AEsと判定した画像に対する平滑化
 - 2 × 2の平均フィルタを使用

実験

実験設定

- データセット : CIFAR-10
- モデル : ResNet-18
- 攻撃手法
 - PGD ($\epsilon = 0.031$, $\alpha = 0.003$)
 - FGSM ($\epsilon = 0.031$)
- 幾何変換
 - 左右反転+{90°, 180°, 270°}の回転
- 閾値
 - $\tau_1 = \{0.1, 1, 10, 15\}$
 - $\tau_2 = 0.125$
- 比較手法
 - DLA [P. Sperl+, EuroS&P, 2020]
 - Feature Squeezing [W. Xu+, NDSS, 2018]
 - PixelDefend [Y. Song+, ICLR, 2018]

検出性能の評価

- 検出率のF値を比較

従来手法と提案手法の検出率のF値の比較

	FGSM	PGD
DLA	0.815	0.833
Feature Squeezing	0.667	0.667
PixelDefend	0.571	0.571
提案手法($\tau_1 = 0.1$)	0.572	0.581
提案手法($\tau_1 = 1$)	0.666	0.660
提案手法($\tau_1 = 10$)	0.667	0.667
提案手法($\tau_1 = 15$)	0.667	0.667

- 従来手法と同程度，または低下

修正性能の評価

- 認識率を比較

従来手法と提案手法の認識率の比較 [%]

	Clean	FGSM	PGD
防御なし	92.39	17.51	0.01
Feature Squeezing	86.50	61.54	2.97
PixelDefend	85.00	46.00	46.00
提案手法($\tau_1 = 0.1$)	88.08	28.62	1.10
提案手法($\tau_1 = 1$)	86.19	33.44	1.52
提案手法($\tau_1 = 10$)	86.20	61.93	72.89
提案手法($\tau_1 = 15$)	86.20	61.93	72.90

検出の組み合わせごとの認識率の比較 [%]

	Clean	FGSM	PGD
防御なし	92.39	17.51	0.01
事後確率のみ	92.30	17.82	0.01
特徴マップのみ	88.11	28.48	1.10
提案手法	88.08	28.62	1.10

- AEsに対する認識率
 - 従来手法より向上
 - 特徴マップと事後確率を組み合わせることで向上

まとめ・今後の予定

まとめ

- 提案手法はAEsに対する修正性能が高い

今後の予定

- 特徴マップの取得位置の変更 : 畳み込み前後より取得
- 統計手法の変更 : バイスpekトル，コサイン類似度の導出